

看護研究は何

林綺婷(Lin Qiting)
神戸大学大学院
保健学研究科
看護学領域家族看護学
博士課程前期課程1年生
Email:my505601003@gmail.com



アウトライン

01 看護について

- フローレンス・ ナイチンゲール
- 看護

02 看護研究

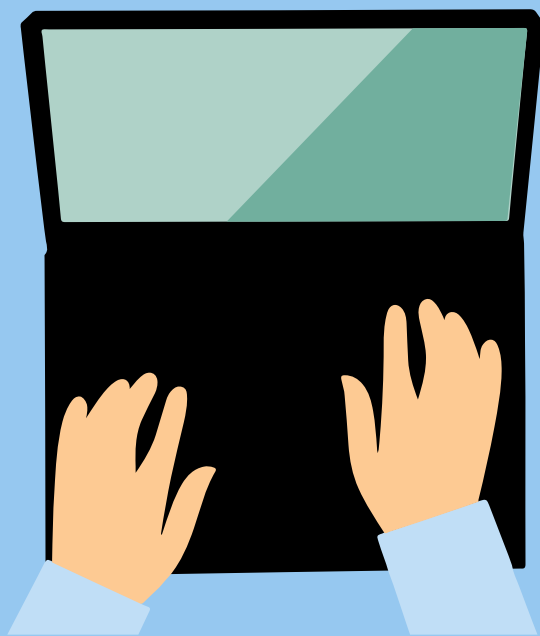
- 定義、目的と意義
- 対象、EBNに基づく研究

03 EBNに基づく看護研究

- 概念、重要性、EBNと看護
- EBN実践のための5段階.

04 看護研究の種類

- 量的研究
- 質的研究



フローレンス・ ナイチンゲール (Florence Nightingale)

- 1820-1910
- イギリスの看護婦、社会起業家、統計学者、看護教育学者。近代看護教育の母。
- 国際看護師の日(5月12日) : 彼女の誕生日
- 1860年看護学校設立



看護とは

健康と能力の防護・促進・適正化であり、病いと損傷の予防であり、人間の反応の診断と治療を通しての苦しみの緩和であり、故人・家族・地域社会・対象集団のケアにおける擁護である。(米国看護師協会,2010b)

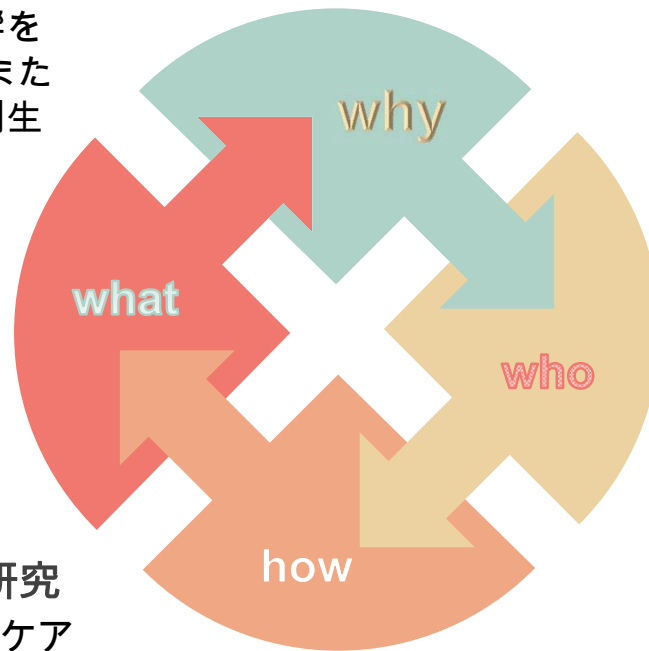
看護研究

定義

エビデンスに基づく看護に直接に影響を与える既存の知を検証および洗練し、またそのような影響を与える新しい知を創生する科学的プロセスである。

EBMに基づく研究

看護の究極の目標は、患者、家族、ヘルスケア提供者、そしてヘルスケアシステムのために質の高い成果を増大するエビデンスに基づくケアを提供することである。



目的と意義

「実践している看護の評価をもとに新たな看護を創造したり、看護の質向上を図る」"看護の質の向上をはかる知の創造"として研究に取り組む

対象

患者、家族、ヘルスケア提供者

看護研究の発展の歴史

1930年代と1940年代

ナイチンゲールが患者の死亡率に関する探索を行って看護教育に関する研究までゆっくりと進展していった。

1970年代後半1980年代

看護実践を改善することを目的とした研究をデザインするようになった。

21世紀

質の高いヘルスケアを提供するために最新・最善の研究エビデンスを用いて、看護のためのエビデンスに基づく実践を開発することである。

1950年代と1960年代

看護師ならびに看護の役割が研究の焦点であった。

1990年代

看護介入の有効性の検討と患者成果の調査を注目した。

EBNに基づく看護研究

EBNとは

EBN(エビデンスに基づく看護)は、患者さんに対して最善のケアを提供するための手段であり、看護の熟練者の経験と知識に基づいて行われてきた従来のケアに代わり、現時点で得られる最善の科学的なエビデンス(根拠)を活用して個々の患者さんにとって最善のケアを提供していこうとするものである。

EBNと看護

医療を受ける時に、できるだけ効果のある治療を受けたいのは当然のことだと思います。この「できるだけ効果のある」治療を探す指標としてエビデンスは利用されています。今まで行われた多くの研究結果に基づいて適切な治療が選択され、患者さんに提供されています。

EBNの重要性

ケアの質を確保し、看護の専門性および看護学を確立していくためには、いつでも、どこでも、誰でもが活用できる科学的に立証されたケアを形として残し、それを使っていく努力が、看護職に求められている。

EBN実践のための5段階

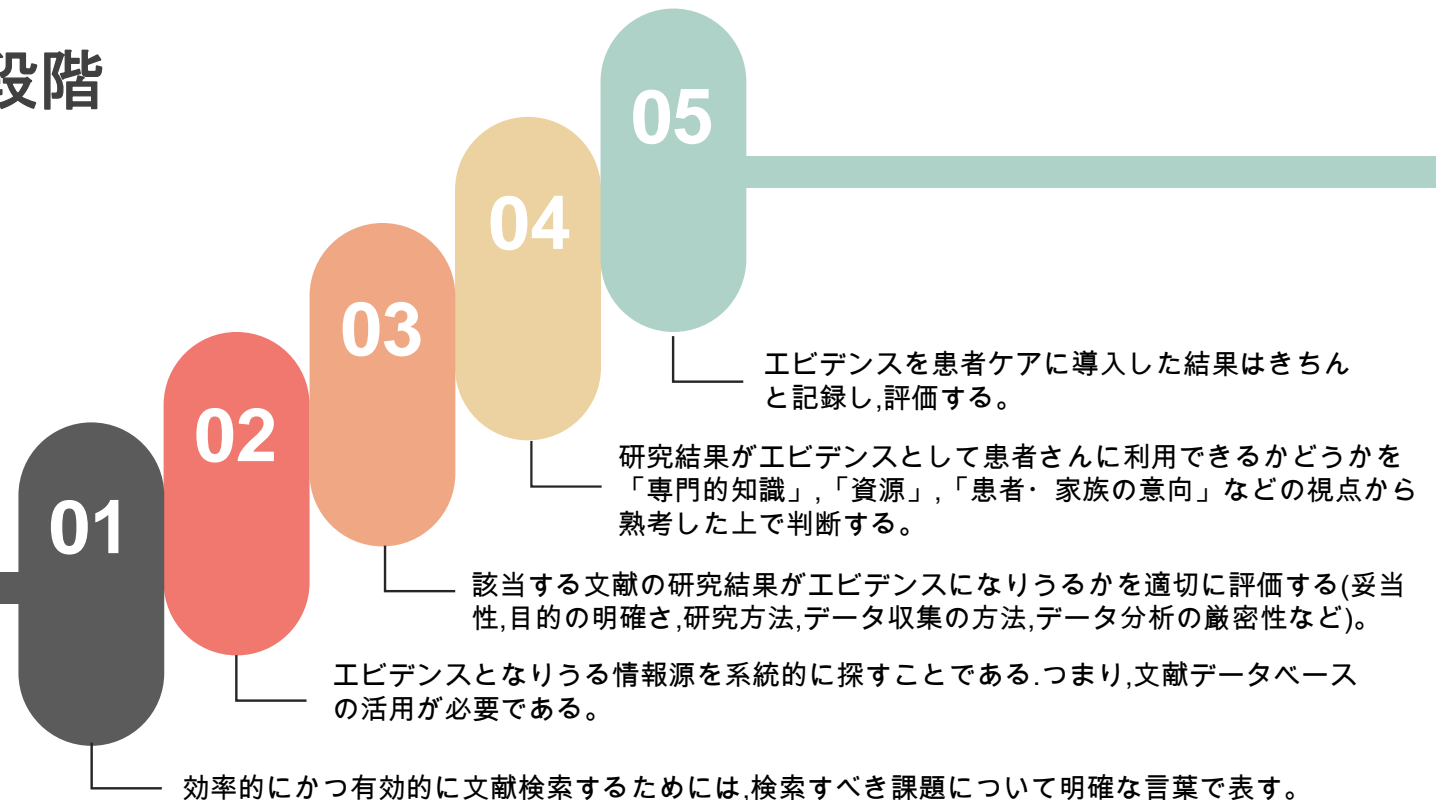
- ①問題を明確にする
- ②文献を探す
- ③文献を批判的に吟味する
- ④患者への適応を検討する
- ⑤アウトカムを評価する



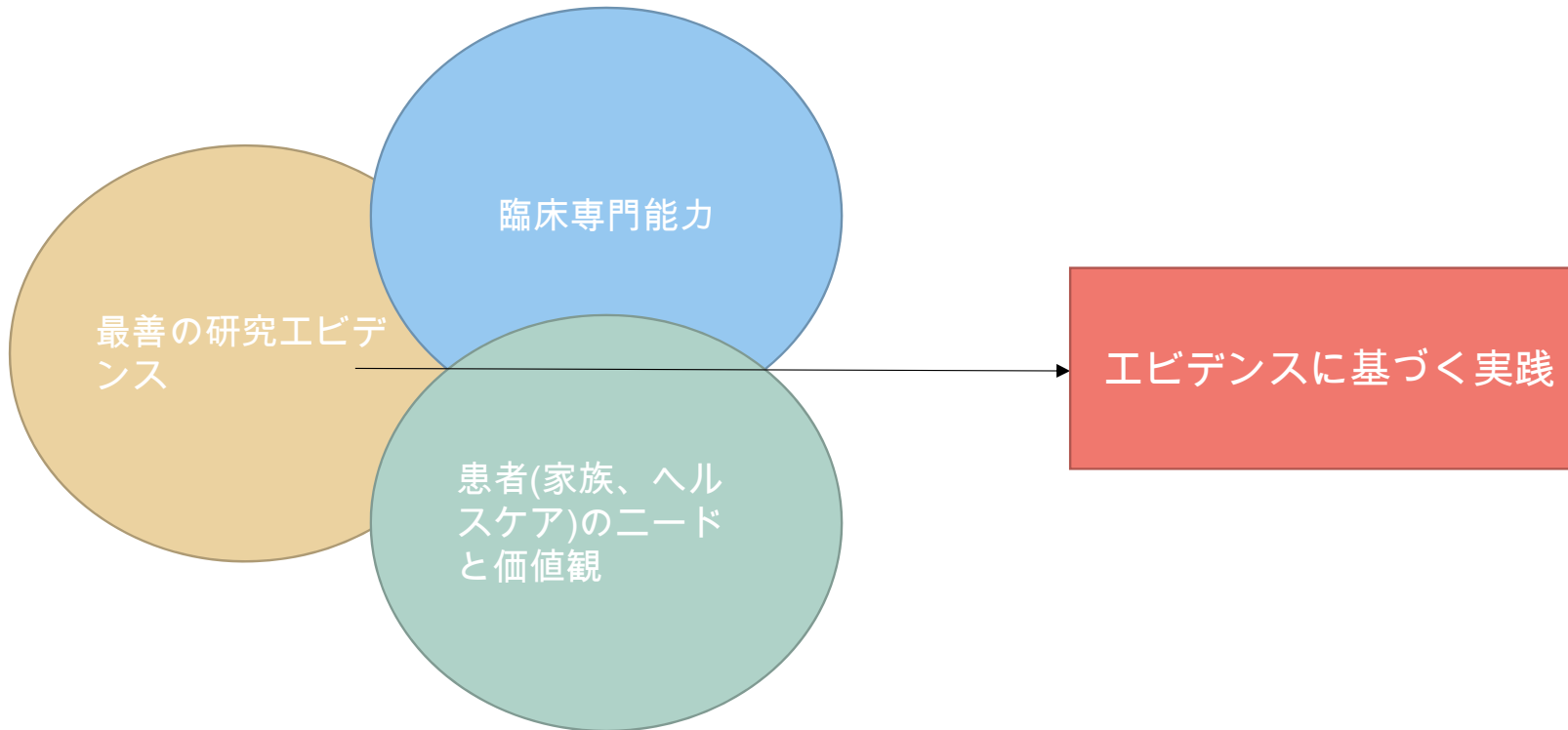
EBNに基づく看護研究

EBN実践のための5段階

- 01 問題を明確にする。
- 02 文献を探す。
- 03 文献を批判的に吟味する。
- 04 患者への適応を検討する。
- 05 アウトカムを評価する。



EBNに基づく看護研究



量的研究/質的研究



量的研究

変数を記述し,関連を検討し,因果関係を調べるための,論理形式の整った客観的で系統立った方法論である。

仮説→データ収集→検証



質的研究

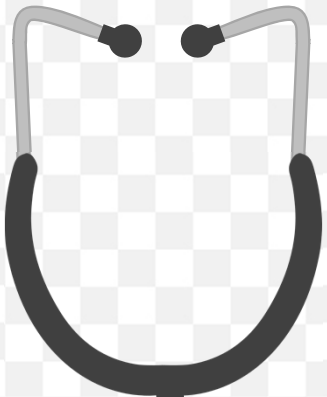
生の経験を記述し,それに意味を付与するために用いられる論理的に厳密で,相互作用的で,ホリスティックで,主観的な研究研究アプローチである。

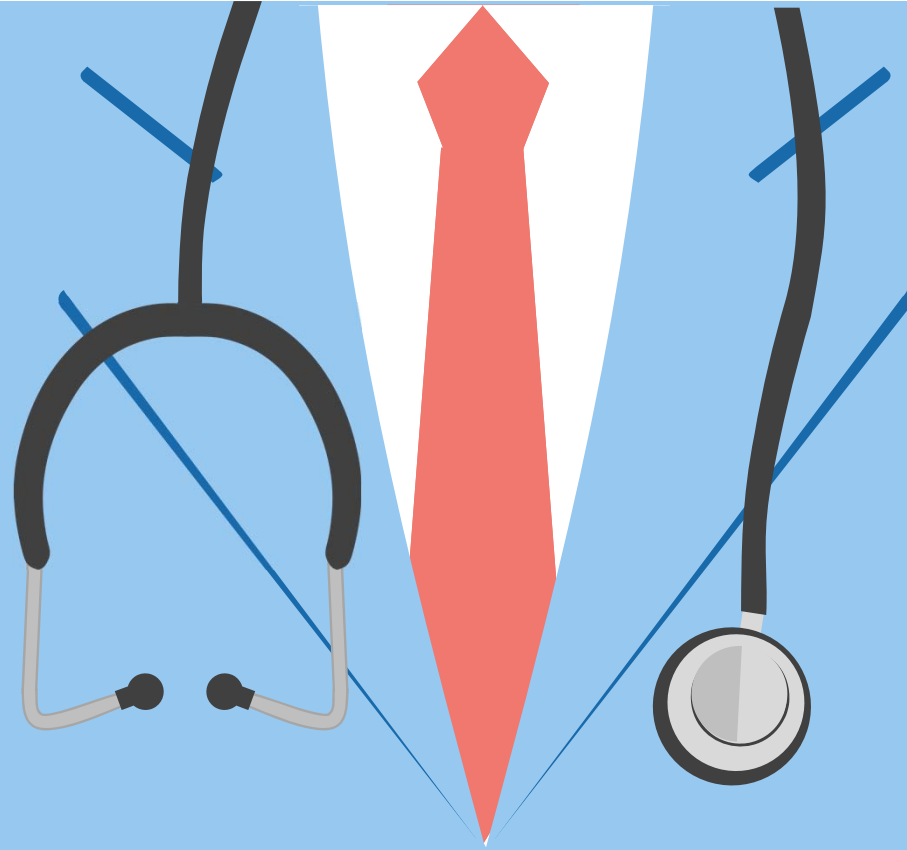
質問紙インタビュー→逐語録→分析



引用文献

- 1.草間 朋子(2003)EBN(Evidence-Based Nursings)を考える.大分看護科学研究4(1),12-15(2003).
- 2.西山悦子(2001)看護におけるEvidence-based Nursing.行動計量学第28巻第2号(通巻55号)2001年,44~49.
- 3.Appraisal,Synthesis,and Generation of Evidence.「監訳」黒田裕子,中木高夫,逸見功.
バース&グローブ看護研究入門:評価・統合・エビデンスの生成第7版.
4. <https://www2.meio-u.ac.jp/pnerc/kenkyu.html>





THANK YOU

Insert the Subtitle of Your Presentation